欧米をめぐって

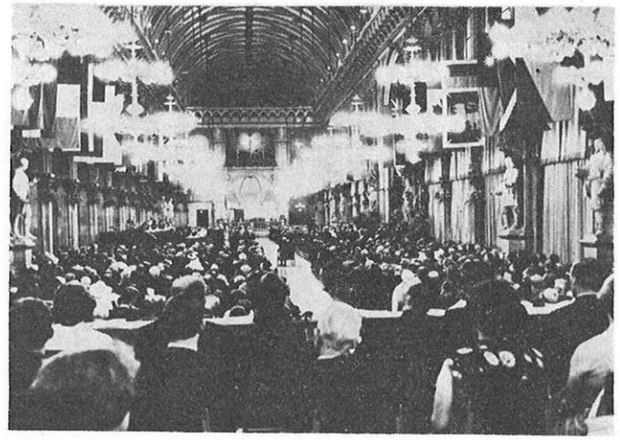
河端 脩
（熊本県副知事）

オーストリアのウイーンで、国際地方自治体連合の会議がありましたので、これに参加し、その機会に、約一カ月、欧米諸国をまわってまいりました。

ウイーン少年の合唱で開幕

★地方自治体連合会議

見上げるばかりのゴシック建築の市庁舎で行なわれました。オーストリアの国旗をかたどった赤と白の垂幕でかざり、シャンデリアの輝く中、フィルハーモニーオーケストラ、ウイーン少年合唱団の音楽、荘厳な中に大統領の挨拶で幕を開けました。



シャンデリアが輝く国際地方自治体連合会議の会場（ウイーン市）

いま、地方行政の中で世界共通の問題は、広域行政と住宅対策であるようです。交通の発達と、住民の高度の行政要求とから、行政は、ますます広域化せざるをえないこと、また、一世代世帯化に伴って住宅が、いよいよ不足してくる傾向、どこの国も、日本と同じような悩みをもっていることがわかりました。

美しい町――だが無気力な印象も…

★ウイーン（オーストリア）

ウイーンは美しい街でした。ホテルの前の市立公園の芝生や花は手入れがとどき、シューベルトやシュトラウスの像が立ち並び、また通りの広告は円型の塔に一定の規格のものしか貼ってなく、また、近代史美術館は、その前庭、噴水や彫刻、入る前から、人を圧倒するものがありました。

しかし、何か活気に欠けているような印象を受けました。ウイーン大学を訪れて、熊本の一の宮町で、集落形成の勉強をしていたクライナー博士と話してみたりしたのですが、私は、原因が三つあると思いました。

一つは、社会保障制度がすすみすぎて、バイタリティを失ったのではないか。二つには、教育制度にあるのではないか。小学校四年で一般とエリートコースに区分するというやり方が、国民に生気を失わせたのではないか。そして、第三に、これが最大と思いましたが、東西陣営の接点にある小国であること。チェコへのソ連の弾圧に対しても悲憤慷慨しているが、口に出せない悲しみ。EECに加盟して工業の進展をはからねばならぬが、ソ連の索制で思うに任せぬ。それが国民を無気力にしているようでした。

ウイーン。観光用の2頭立の馬車。箱は黒、車は赤、それに白馬というコントラストの見事さ。

国土開発への異常な熱意

★ローマ（イタリア）

ウイーンの美しさに比べると、全くゴミを喰って生きているのではないかと思うほど、汚いが活気に満ちたローマでした。

旧ローマ市内は、廃墟との同居、馬車時代の街であるため通りもせまいのですが、それを、国産車F－ATが走りまわっています。

そしていま、EUR地区に、新市を大々的に建設しております。万国博予定地だったところの大開発です。

また、イタリアでは、南北の地域格差がひどいのですが、その格差是正に思い切った手をうっています。〃太陽道路〃と名付けるハイウエイが、ローマからナポリに通じ、その南にまで建設が続けられています。政府の援助をうけた企業は、その六割は南部に投資しなくてはならぬことになっており、また、六年前には、南北電気料を一本化して、南部開発に異常な熱意を示しています。

南部を北部なみに、という悲願が、イタリアの活力の根源ではないかと思いました。

空港と、市内との間に、大中央市場が建設されていました。四年前から始められ、八〇%完成していました。肉から花、ビールに至るまで、あらゆるものが、整然たる建物の中で大々的に取引きされておりました。

しかし、市内のあちこちの工事現場では、アラブ人らしい労働者が目立ち、しかも、つっ立っていて、仕事はしている風でもありませんでした。労働力不足が、日本でもやかましくいわれていますが、日本とは、次元が異るようです。

フランスは、自由、平等の国と思っていましたが、行政、政治形態は、明治時代の日本のようで、中央集権、警察国家であることを知りました。ヘルメットをかぶれば、政府反抗の意思ありとして逮捕されるそうです。

やはりヨーロッパの中心都市

★パリ（フランス）

パリーのオルリー空港につくと、さすがはヨーロッパの政治、経済の中心だという感じがしました。三千米級四本の滑走路をもつ空港が大混雑で、いま、北側に新空港建設が行なわれていました。

〃斜陽〃というイメージ

★ロンドン（イギリス）

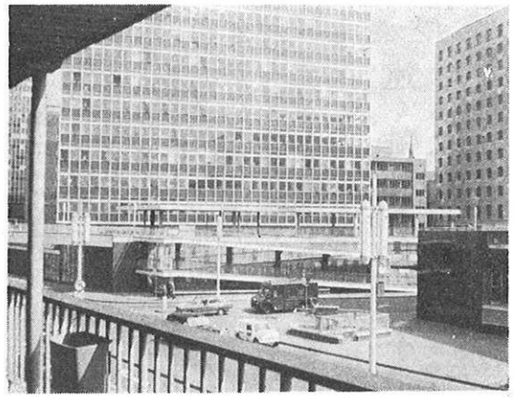
ロンドンの街は、ちょうど四十年ぶりの暑さとかで、海辺ではないかと錯覚を起すほどの賑いと、ミニなど派手な服装のはんらんでした。

貨幣も十進法ではなく、また、プリンス・オブ・ウェールズの立戴式に抗議して、ウェールズ人が自殺したり、何か〃斜陽〃という言葉を思い出しました。

しかし、ここでも、貨幣制度、教育制度の改正、社会保障の削減、第二次産業強化のための選択的雇傭税など、一連の革命ともいうべき制度の改革が行なわれようとしていました。

★オランダ

アムステルダムのスキップ空港は、昨年完成した世界最新の空港でした。羽田の八倍の広さで、ターミナルからフインガーが出てきて、飛行機のタラップを降りるということがありません。絨毯から絨毯へという感じです。



ロンドンの都市づくり。2㎞のビジネスセンター地区。旧い建物をすべてとりこわし二十階以上のビルが新設されている。

友情年賀絵はがきをつかいましょう

第17回＝手足の不自由な子どもを育てる運動・10月10日→12月10日

手足の不自由な子どもに愛の手を！

●手足の不自由な子どもたちが不自由をのりこえて社会に出ていくためには、今のうちから周囲の人びとがあたたかく見まもっていかなければなりません。

●手足が不自由なことは、胃腸が悪いのと同じで、からだの故障にすぎないのですから、この子らをごくあたりまえに扱いましょう。

●そして、絵はがきを年賀状として出されて、できるだけたくさんの人びとに、この子どもたちへの関心を忘れないようにしてもらいたいものです。

日本肢体不自由児協会＝熊本県肢体不自由児協会